

LETTER

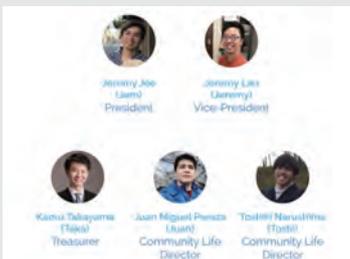
GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1 ページ GSC Recap for Autumn 2020 (President of the GraSPP Student Council)
- 2 ページ 新任教員インタビュー
- 3 ページ 学生インタビュー(上杉素直さん)
- 4 ページ ANU、Cambridgeの戦略的パートナーシップのイベント報告 / TOPICS

GSC Recap for Autumn 2020

Jeremy Lee (President of the GraSPP Student Council)



2020/21 GraSPP Student Council started our term over the summer break, and our goals revolve around onboarding new students, improving communications, and trying out new initiatives.

For new students, we wanted to implement a more structured orientation experience so that they could have their questions answered before arriving in Japan, as well as being able to meet new friends in their cohort. Thus this year, we reached out to new students much earlier, in July as opposed to the usual meeting on the first briefing session at GraSPP.

We set up an online Q&A system where new students could ask their questions online over a week, and compiled this into a FAQ document which we emailed out to them.

Additionally, we created a “Student’s Guide to Life at GraSPP”, which is a comprehensive guide to everything from how the academic system works in GraSPP to securing accommodation and a phone line in Tokyo.

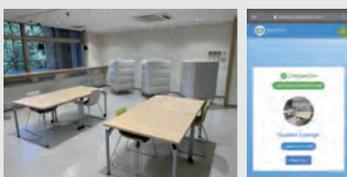
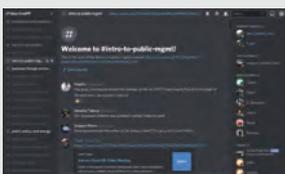
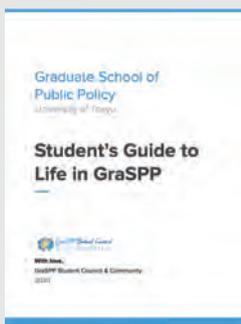
We also instituted a Peer Mentorship System where senior students can volunteer to take new students under their wing. The idea was to provide as many points of contact, and platforms for students to get their questions answered.

At the GraSPP Social Orientation, students came together for a day of social bonding and games. Splitting students into various orientation groups, students got to play ice breakers as well as online games. We hope that students would be able to take this chance to make new friends online, and hopefully out of the classroom as well.

In terms of new initiatives, this year we set up a Discord server to become a one-stop communications platform for GraSPP Students. Rather than having multiple platforms such as Facebook Messenger group, Line Group, and others, we created a single destination for everything. The Discord server reposts Student Bulletin Board messages, as well as hosts a module chat for every module in GraSPP, allowing students to exchange information about classes and arrange group work easily. It also has community forums where people could ask questions about housing, visa matters, and discuss the latest news too.

We also spent a great deal of time at the start of the semester getting student facilities back up and running during this COVID pandemic. This included implementing safe distancing measures, such as limiting the maximum capacity in lounges and distancing furniture away from one another. We also instituted an online check-in and check-out system, where students could scan a QR code and indicate which room they would be in.

We are looking to continue promoting our module review system so that students can make more informed decisions about classes. Look forward to our online social event to celebrate the end of the semester! If the COVID pandemic comes under control, we hope to also be able to do some in-person events next semester, including the annual GraSPP trip.



新任教員インタビュー

Stacey Chen 教授



I'm a Professor of Economics at GraSPP and a Taiwanese citizen. My research focuses on the causes and consequences of inequality and the evaluation of public policy. Before coming to Japan, I taught at the University of New York at Albany and the Royal Holloway University of London. My recent working papers examine whether social ties can mitigate agency problems in medical care systems, the causal effect of maternal education on child health in Africa, and how university opening affects female education and career decisions.

To our students: We have entered the era of big data. The world has become radically transparent, with data widely available. Integrating data and unearthing insights by testing/evaluating all policy decisions has fundamentally changed how nations compete and prosper. As future leaders, GraSPP students should be well-acquainted with quantitative analytical methods to capitalize on it through investments and forward-looking instinct.

鈴木 一人 教授



みなさんこんにちは。2020年10月に着任した鈴木一人と申します。専門は国際政治学ですが、中でも技術と国際安全保障をテーマに宇宙政策、経済安全保障、制裁、原子力安全、欧州統合などを研究しています。2013-15年には国連安保理イラン制裁専門家パネルで委員を務めており、現在も宇宙政策委員会安全保障部会委員、安全保障貿易学会会長などを務めております。

グローバル化が進み、「追いつき追い越せ」や他国の事例などを参照した公共政策が限界を迎える中、自ら考え、新たな価値を生み出す政策立案、政策執行ができる人が今までになく求められています。GraSPPで学ぶことでそうした能力と知識を育て、新たな価値を生み出せる力をつけていってください。

仲田 泰祐 准教授



皆さん、初めまして。2020年4月に公共政策大学院に准教授として着任した仲田です。

日本の高校を卒業後に渡米。シカゴ大学卒業後、カンザスシティ連邦準備銀行でエコノミストとしてキャリアをスタート。2012年にニューヨーク大学で経済学博士号取得後、昨年3月まで連邦準備制度理事会で政策と研究に従事していました。専門分野は金融政策です。

公共政策大学院では授業・論文指導を通して、「現実に役に立つ分析道具としての経済学・意思決定のパートナーとしての数理モデルの使い方」を皆さんに伝えることが出来ればと思います。皆さんが卒業後にそれぞれの道で活躍するためのお手伝いを少しでも出来ればこれ以上の喜びはありません。

正木 祐輔 准教授



8月に准教授として着任した正木です。総務省職員ですが、内閣府や熊本県、山口県でも勤務し、2016年の熊本地震では熊本県財政課長として復旧復興予算の編成に当たりました。熊本県勤務後はハーバード大学大学院で政治学と経済学を中心に学び、直近では、総務省で自治体行政のデジタル化を担当していました。

GraSPPの使命は、一つの学問分野では解決できないような課題に対して、法学・政治学・経済学等の様々な専門的知見を組み合わせることで課題解決の方策を構想する力を持った政策実務家を養成することです。卒業後、政策実務に携わろうとする皆さんは、各分野の理論を学ぶ際には、その理論を他分野の理論とどのように組み合わせることができ、どういった実務上の課題解決に用いることができるのかを常に意識しながら学んでほしいと思います。

学生インタビュー

第35回



大きな国際会議の取材は毎回とてもワクワクします
(2018年にアルゼンチンで開かれたG20サミット)

上杉 素直さん

(国際公共政策コース/専門職学位課程1年)

—GraSPPに入学された経緯を教えてください。

私は日本経済新聞社で記者の仕事をして20年ほどしていますが、業界を取り巻く環境はこの10年で激変しました。基本的なニュースはインターネットで届くようになり、新聞にはより深掘りした記事が求められるようになってきました。その結果、私たちの仕事が純粋なニュース探しから、読者に対する「視点」の提供へと移ってきました。世界で日々起こる出来事を見極めるには、それなりの知識や情報量が求められるのは言うまでもありません。取材で養われるのとは違った種類の考え方や分析力を養いたいと考えていたところ、上司がGraSPPのことを勧めてくれたこともあり受験しました。

—学校生活はいかがですか？

さあよいよ入学だ、と思ったころに起きたのが新型コロナウイルスの感染拡大です。一斉休校や緊急事態が立て続けに宣言される異常な時期に学生生活をスタートしました。春学期の授業はすべてオンラインで、最初は不慣れだったZoomの使い方に苦労しましたね(汗)。他の有名大学がいつからどういう形で授業するか逡巡していた2020年春にさっと全面オンラインを決めた決断の素早さには感心しました。ようやく秋学期にゼミ形式の授業が1講義だけ対面開催が可能ということになり、実際にキャンパスに行くことができました。授業の前後に構内を散歩すると、やっぱりキャンパスはいいなと改めて感じます。

—在学中にどんなことにチャレンジしたいですか？

仲間と集まって飲みに行くのが大好きですので、早く学友のみなさんと乾杯したいですね。オンラインではありますが、授業中でのやりとりなどで接していても熱心でユニークで魅力的な方が多いと感じます。外国からGraSPPに留学された方々の話もぜひ聞いてみたいです。世代も国籍もさまざまな学生が在籍しているのがGraSPPの非常に良いところだと感じます。記者の業務ではなかなか出会えない人たちだと思うので、コロナ禍が収まった暁にはじっくり飲み交わしたいです。お付き合いください！

—GraSPPでの経験を今後どのように生かしていきたいですか？

ややつまらない答えですが、質の高い、良い記事を書くことに尽きるのだと思います。明日も良い記事を書きたいし、1年後にはもっと良い記事を書きたい、5年後にはもっともっと良い記事を書きたいです。きっとGraSPPでの学びはそのための糧になるのだと信じています。GraSPPで学ぶことで新しい知識や見識を身につけるのはもちろんですが、自分が知らないことに日々接することで自分の無知を思い知る効用もあると感じます。そんな刺激を受けることを含めて、とても貴重な経験をさせてもらっています。(インタビュー・文責 編集担当)



日銀本店の記者クラブで金融機関の社長交代や決算の発表をカバーします



経済の最前線を感じるために世界中でさまざまな人たちの話を聞きます
(東南アジアの新興ビジネスの現場)右から二人目が上杉さん

ANU、ケンブリッジ大とのオンライン・イベント開催報告

公共政策大学院 企画・総務グループ 那知 信恵

公共政策大学院では、キャンパスアジアの北京大学・ソウル大学校の他、オーストラリア国立大学(ANU)のクロフォード公共政策大学院(Crawford School of Public Policy)、およびケンブリッジ大学の生存リスク研究センター(The Centre for the Study of Existential Risk:CSER)との間で「戦略的パートナーシッププロジェクト」(*)によるプログラムを実施しています。

ANUとは12月3日、“Japan and Australia’s National Hydrogen Strategies – A Conversation”というテーマでワークショップを開催し、日豪両国政府官僚、産業界、大学等の研究者を招いて両国の水素エネルギー戦略について議論しました。日本側は経済産業省資源エネルギー庁 新エネルギーシステム課白井俊行課長、本学先端科学技術研究センター杉山正和教授、オーストラリア側は、産業・科学・エネルギー資源省のジェームス・ヘザリントン氏およびANUエナジーチェンジインスティテュートのケネス・ポールドウィン教授による発表(ファシリテート:クロフォード公共政策大学院ルウェリン・ヒューズ准教授)がありました。

ケンブリッジ大学とは、全学の“UTokyo-Cambridge Voices”の一環として、11月19日に“East Asia at Risk: Regional Insecurity and the Future of Alliances”というテーマでウェビナーを開催し、本学法学政治学研究科藤原帰一教授、ケンブ

リッジ大学ジョン・ニルソン・ライト教授による講演(ファシリテート:GraSPPヘン・イー・クワン教授)を行いました。また11月30日には、“Global Risks of Public Policy”というテーマでウェビナーを行い、GraSPPヘン教授、CSERのクラリッサ・リオス・ロハス教授による講演(ファシリテート:GraSPP城山英明教授)を行いました。

あらゆる場面でコロナ以前の方法が通用しなくなった「ウィズ・コロナ時代」において、従来の国境を物理的にまたぐ人的交流を当たり前としてきた国際交流の在り方も、2020年度はオンラインによる交流を余儀なくされました。オンラインのイベントは費用やロジ面で開催者と参加者の負担も軽く、しかも内容の伴った議論ができるため効率性という点では優れており、ウェビナーの乱立や技術的な問題で新たな課題はあるものの、今後の国際交流の在り方の新しい可能性を感じました。

※東京大学が全学の部局横断的の事業として取り組んでいる「戦略的パートナーシッププロジェクト」では、国際的な教育研究の交流や多様で分野横断的な交流を推進し、教職員・学生の流動性を高めるため、通常の大学間学術交流協定を超えて本学と特別な関係性を持つ大学を「戦略的パートナー大学」と位置づけ、各大学との交流プログラムを推進しています。



2020.12.3 ANUとのワークショップ
クロフォード公共政策大学院ルウェリン・ヒューズ准教授



2020.11.19 ケンブリッジ大学とのウェビナー
上:ケンブリッジ大学ジョン・ニルソン・ライト教授、
下:法学政治学等研究科藤原帰一教授



2020.11.30 ケンブリッジ大学CSERとのウェビナー
上:GraSPPヘン・イー・クワン教授、
下:CSERクラリッサ・リオス・ロハス教授

TOPICS

- 社会人を対象とした「HTA(医療技術評価)エキスパート養成プログラム」の2021年度受講生の募集を開始します。詳細は以下のWebサイトよりご確認ください。
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPTA/news/index.html>
- 入学希望者向けのイベント「Discover GraSPP」を2021年3月13日(土)に開催予定です。詳細は以下Webサイトをご確認ください。
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/events/2021-02-12-28551/>
- 国際プログラム(MPP/IP)の新しいパンフレットが発行されました。
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/mppip/mpp-ip-brochure-2021-2022/>



編集後記

2回目の緊急事態宣言が出される中、31年続いた大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト」が1月16、17日に実施されました。世界を見れば、米国では1月20日に、民主党のジョー・バイデン氏が第46代大統領、カマラ・ハリス氏が初の女性でアフリカ系でアジア系の副大統領に就任しました。年始から国内外で様々な変化が起きていますが、Newsletterは続けて「GraSPPの今」を発信して参ります。(編集担当)

vol.

61

NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2021年2月12日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>